

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第37号

2015年3月15日発行

*** 目次 ***

1. 援農ボランティア養成講座終了 “その後”
2. 「採って食べよう！秋のお野菜で芋煮会」
3. あびこエコマルシェを終えて
4. 年末のつどい
5. エコ農業取り組み農家見学バスツアー
6. 野菜の食味と食感のはなし
7. 新年ちびっ子餅つき大会 2015
8. 第39回消費生活展
9. 36号の再配布について
- 10.編集後記



第11期援農ボランティア養成講座 杉浦農園にて

発 行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 米澤 外喜夫

住 所：270-1155 我孫子市我孫子新田 22-4 (あびこん内)

(業務日 月・火・木) Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail abikochisanchisyokyo@sky.plala.or.jp

URL <http://business4.plala.or.jp/chisan/>

(協議会ホームページではカラーでご覧いただけます)

1. 援農ボランティア養成講座終了 “その後”

ボランティア部会 植木康雄

第11期養成講座は昨年10月11日(土)から11月22日(土)に実施しました。

今年の受講生は12名でした。(内訳は男性が11名・女性が1名。12名の内、我孫子市外からは5名)

今回も受入農家さんの実習作業4回と座学2回を行い、12名全員が修了しました。

受講修了後、早速12月から農作業に入り、

12月のボランティア申込数 全体152回 その内 11期生は28回 (全体の18.4%)

27年1月の // 123回 // 11期生は20回 (全体の16.2%)

27年2月の // 145回 // 11期生は25回 (全体の17.2%)



と多数の参加希望が有りました。又、1月の「ちびっこ餅つき大会」にもスタッフとして参加されるなど、「元気に」「積極的に」活動をスタートしました。今後の活躍に期待します。

“諸先輩ボランティアの皆さん” 一回でも多くのボランティア活動に、一層のご協力をお願いします！！！



農家さんから作業手順の説明を熱心
に聞く第11期生の皆さん



苗植え作業実践中

2. 「採って食べよう！秋のお野菜で芋煮会」

広報部会 川田悦代



里芋に関する説明を聞く参加者の皆さん

平成26年11月15日(土)、岡発戸の荒井茂夫農園にて里芋掘りと芋煮会が行われ、スタッフの方を含め48名が参加しました。はじめに里芋の育ち方や里芋を傷つけずに掘る方法について荒井さんから説明を受けた後、大人と子供が協力して土を掘り、丁寧に芋を収穫しました。

体を動かした後は、里芋たっぷりの豚汁、塩おむすび、荒井さんの採れたてトマトなどのお昼ごはん。帰る頃には、初めて会った子供達がすっかり仲良くなり、楽しく遊んでいました。この日のため準備を進めてきた食育交流部会を中心とする皆様、本当にお疲れ様でした。

3. あびこエコマルシェを終えて

エコ農産物普及推進部会 今村直美



あびこエコマルシェ（アピーズファーム前で開催）

平成26年12月13日（土）に、はじめてのあびこエコマルシェを開催することができました。「人と人を繋ぐマルシェを作りたい！環境にやさしい農業に取り組む農家さんの心を込めて育てた地元の野菜や手づくりの品々を地元の人に届けたい！農ある我孫子の暮らしの豊かさを楽しむきっかけ作りをしたい！」という思いから始まりました。

当日はお天気にも恵まれ、多くの方がマルシェに来てくださいました。心地よい音楽の演奏もあり、和やかに家族連れの皆さんでぎわいました。野菜と加工品を合わせて13軒の農家さんや団体の方がお店されました。近隣の方々にポスティングしたおかげもあり、10時からはじまったマルシェは2時間ほどでほとんど売れてしまうほどの盛況ぶりでした。お買い物に来た方々は、「この野菜はどうやって食べたらおいしいの？」「このレシピ、教えてくれませんか？」など、生産者との直接の交流を楽しんでいる様子でした。

今回のマルシェを通して感じたことが2つあります。1つ目は、我孫子の農家さんはなんて気さくで消費者思いの方が多いのだろう！ということです。参加されたどの農家さんも「買って下さる人の顔を思いながら育てているよ」「もう一度食べたいって思ってもらえるものを作っているよ」と口々におっしゃっていました。そして、もう1つは消費者の方々も本当に顔の見える、新鮮な地元の野菜や加工品を望んでいるということです。「これから毎月あるの？」「次はいつ？」という言葉が何度も聞かれました。

後は、生産者と消費者をつなぐ機会を作るだけです！今後に繋げられる活動にしていきたいと思いました。

4. 年末のつどい

食育交流部会 陸川良子



平成26年12月6日（土）、けやきプラザ9階ホールにて「年末のつどい」を開催しました。参加者数は75名と盛況で、農家さんやボランティアさん、行政の方々で大いに親睦を深めました。

「年末のつどい」にはゲームや歓談、ユーモアあふれる自己紹介などたくさんの楽しみがありますが、今回の目玉は川村学園女子大学生活文化学科の先生方による、我孫子のお野菜をふんだんに使った大変美味な中華フルコース料理でした。参加者のみなさんからは「お料理が本当に美味しいねえ」と満面の笑みでコメントをいただき、地元の農家さんが作った野菜をみんなで（しかも農家さんも一緒に！）美味しく食べるという幸運を味わうことができ、とても嬉しい一日となりました。これぞ地産地消の醍醐味ですね。来年度も是非楽しい「つどい」となるよう繋げていきたいと思います。

最後に、「年末のつどい」実施に際してご協力いただきました農家さん、農政課のみなさん、川村学園女子大学の先生方、実行委員のみなさん、当日お手伝いしてくださったみなさんに心より感謝をいたします。

5. エコ農業取り組み農家見学バスツアー

広報部会 川田悦代

平成26年11月23日(日)、エコ農産物普及推進部会・販路拡大支援部会による、環境にやさしい農業について学ぶバスツアーで、①柏市増尾で虫による害虫の防除に取り組む小川幸夫さんの農園、②千葉県山武市で地域ぐるみで有機農業に取り組む農事組合「さんぶ野菜ネットワーク」事務局を約30名が訪問した。またバスでの移動中、参加者全員による簡単な自己紹介の後、③筑波大学大学院の准教授(社会学)・五十嵐泰正さんが、東日本大震災後の放射能による風評被害を乗り越える、柏市での「『安全・安心の柏産柏消』円卓会議」などを通じた取り組みについて説明した。

①小川幸夫さんの農園



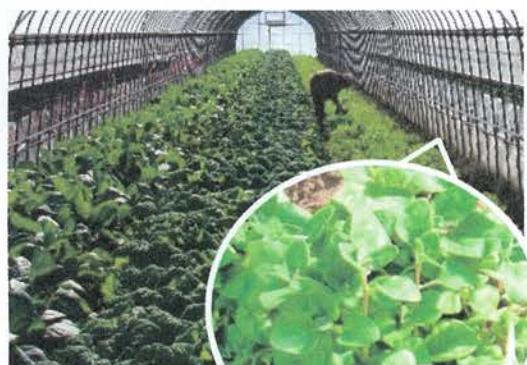
ミツバチの巣箱

小川さんの農園は柏市増尾にあり、約1.2haの畑で年間約100種類の野菜と果物を生産している。農園内にはミツバチなどの虫たちが元気に飛び回り、畑の入口付近には西洋ミツバチと日本ミツバチの巣箱がそれぞれ置かれている。この蜂の中には、民家などに営巣したため駆除されるところを小川さんに保護された蜂もあり、虫たちが暮らす環境に大きな変化が起きていることを物語っている。「このような虫たちにどうやって畑に住んでもらうかが重要なんです」と小川さんは語る。なお、ハチミツは蜂が越冬するための大切なエネルギー源であるため採取していない。



虫たちが暮らす環境について説明する小川さん

小川さんの畑は、生き物の相互関係を利用して虫や植物が共存するための様々な工夫が凝らされている。例えば農園内の4棟のハウスのうちの一つでは、ナバナなどのアブラナ科の野菜と春菊と一緒に育て、春菊にパンカープラントとして虫を集めることでアブラナ科の野菜を守り、ツルナやスベリヒユなどで畑の周りを覆うことで雑草の繁殖も適度にコントロールしている。



パンカープラント
(ツルナなど)

また同じ種類の虫でも、科や属が異なれば野菜の好みも異なることに着目し、大根、黄カブ、赤カブ、紫大根等、様々な種類の野菜を植えることで、アブラナ科やアカザ科などの野菜を好むカブラヤガ(ネキリムシ)に野菜を食い尽くされることを防ぐだけでなく、虫の過剰発生を抑制することもできる。小川さんは、「農作物を食べる虫にも、それぞれ存在する理由があります。特定の種類の虫だけを大量に殺すと、せっかく保たれている生態系のバランスが壊れてしまう。それは野菜でも同じことです。パッキングしやすいとか病気に強いという理由だけで、特定の品種だけを大量に栽培すれば、それを好む虫だけが増えてしまう。虫も植物も種類が豊富に存在することで生態系のバランスが保たれるのです」と自然と共に存する事の大切さについて語った。

②農事組合法人「さんぶ野菜ネットワーク」

千葉県山武市埴谷にある集出荷場にて下山久信事務局長にお話を伺った。「さんぶ野菜ネットワーク」は、人参の指定産地として長年作り続けたことで土が疲弊し連作障害に陥ったことがきっかけとなり、前身となる睦岡農協園芸部無農薬・有機部会として1989年に誕生。農薬や化学肥料を使用しない農地10アールからスタートし、地域の有機農業のさらなる発展のため、2005年に農事組合法人さんぶ野菜ネットワークを設立し農協から独立、同地域における有機農業の中心的役割を果たしている。また近年、生産者の高齢化による後継者不足や遊休農地の増加等の問題が深刻化していることから、これに対応するために山武市有機農業推進協議会を立ち上げ、農業委員会や山武市などの協力を得て、山武市・富里市での新規就農者の受け入れ拡大・支援・育成等に取り組んでいる。2年間の研修を終了して独立した新規就農者は、22名（2014年12月現在）に上る。さらに4名が2015年に就農予定である。



有機栽培の人参

下山さんは「新規就農者が、青年就農給付金（最長5年間）等の給付期間が終了した後に農家として自立できることが重要。研修で教わったノウハウを生かし、農地管理と収穫・出荷作業のバランスをとりながら経営していくようにしっかり支援していきたい」と語る。また特に新規就農者の場合は、「最初は栽培品目を増やすことよりも、適切な時期に適切な作業を行えるようになることが重要。水路管理等の共同作業も多くあるため、技術だけでなく周囲の人との人間関係を築くことが大切」と語る。

更に、有機野菜の販売先を確保し、販路を切り開くことは、有機農業を継続させていくために重要なポイントである。日本では有機野菜の市場がまだまだ小さいことから、山武産の有機人参をたっぷり使った人参ジュースをはじめ、様々な商品の販路拡大にも精力的に取り組んでいる。

③五十嵐泰正さん（「安全・安心の柏産柏消」円卓会議などの取り組みについて）

東日本大震災後、放射能による風評被害の影響で柏産野菜の売上が減少したことから、柏産野菜の現状を把握し「安全・安心の柏産柏消」を確立するために五十嵐泰正さんたちが中心となって結成した「『安全・安心の柏産柏消』円卓会議」。

当時行ったアンケートでは、消費者の多くが「本当は地元の農家が作った野菜を食べたい。でも放射能のリスクは避けたい」と考え、結果として他地域で生産した農作物を選んでいることが判った。また、農産物の出荷後の抜取り計測だけではよく判らないことも、地元産野菜の信頼回復を妨げる要因となっていた。

そこで五十嵐さんたちは、生産者の畠を一つずつ回り、野菜の品目ごとに畠の端や中心部などで土壤の放射能を計測し、最も汚染されていた場所で収穫した野菜の放射能濃度を、情報として発信することにした。農家三十数軒以上がこの取り組みに協力した。この集計作業は一日掛かりで時間と労力がかかるだけでなく、生産農家にとって緊張を伴う作業でもあった。協力農家の一つ、今村直美さんは当時を振り返り、「でも、自分の畠を隅々まで計測したおかげで農作物の状態をきちんと把握でき、自分が作った野菜に自信を持てるようになった」と語る。

また五十嵐さんは「地元産野菜を買ってもらうためには、地元産野菜の良さを理解してもらうのが一番。^{うち}口コミ、地域情報誌、メディアなどを通じて地元野菜の安全性や魅力をPRしたり、地元のレストランなどで食材に使ってもらったり、生産者の買う人との交流を進めたりすることの大切さに気付いた」と語る。

これらの努力が実って柏産野菜の購買量はゆっくりと回復し、2014年8月のアンケートでは「柏産野菜を再び買うようになった」との回答が多数となり、その理由を「地域の農業や農家に親しみを感じたから」「地域そのものへの愛着があるから」となどと回答している。また、イベントなどでの地元産野菜販売の売行きも伸びている。「一度、購買ルートを変えてしまった人に、また戻ってもらうために、今後も様々なアイディアやチャレンジが必要」と五十嵐さんは語る。

6. 野菜の食味と食感のはなし

農家会員 日暮俊一

健康志向の観点からマスコミなどでも様々な野菜が取り上げられている昨今ですが、私が子供の頃の野菜と現在の野菜を比較すると、その種類や品種の多さは言うに及ばず、LEDによる工場生産も含めて、栽培類型や栽培方法による多様性など様相が一変してしまいました。

当然その食感についても、料理方法による差異はあるにしても、ここに季節による変異も加わる訳ですから、実に多様な食味・食感を楽しめるすばらしい時代になったとも言えます。

例えはキュウリを例にとっても、市場、流通、小売業者の要望により、外觀や日持ちなどの点からいわゆる昔の果皮の白っぽいブルームいっぱいのキュウリは市場から姿を消し、ブルームレスの果皮表面の緑色の濃い、果皮・果肉の比較的しっかりとした品種にとって代わりました。子供の頃の、あの軟いキュウリには中々お目にかかれません。



また、ハウス栽培か露地栽培かの栽培類型によっても、あるいは堆肥を充分施用し、水分条件も良く順調に育ったものと、肥料不足で日数を要して生育したものとでは、当然食味や食感に大きな差異が生じます。良好な栽培環境で育ったものは一般的に食感がジューシーで軟く、栽培環境が不良な処で生育・収穫した野菜はジューシーさに欠け、いわゆるエグミも強く、食感も硬めとなります。

葉物野菜の代表格であるコマツナでは、現在、チングンサイやターツァイなどの中国野菜のDNAをとり入れた葉軸の太いコマツナにとって替わりましたが、気温上昇期の春作のコマツナに比べ、秋から冬にかけて日数をかけて生育したコマツナでは、食味・食感が大きく異なります。

いわゆる秋冬作で霜がかかる期にかけて何度か降りるという気象条件が加わったコマツナは、甘味成分やコマツナ自体が持っているフィトケミカル※などの成分との複合食感により、極めて味の濃い、食べていて存在感たっぷりのコマツナとなります。

尚、施設栽培のコマツナであれば、太陽光線は抑制されて生育しますので、食味・食感のメリハリは当然露地栽培のものよりおとなしくなります。さらに小カブに至っては、葉軸が折れやすいものが流通や小売業者に敬遠され、種苗会社が葉軸のしっかりした、つまり葉軸の硬い品種や、耐病・耐虫性の品種を育成して来た経緯もあり、いわゆる白い玉のカブの部分も硬めの小カブが市場を席巻していた時期もありました。

最近では種苗会社も食味や食感にも心がけ新品種の育成をする様になり、コンパクト化やサラダ化などとあいまって、ホウレンソウ・ダイコン・キャベツ・ニンジン・ハクサイなど、これまでよりだいぶ食味・食感が改善された品種が出回る様になりました。

食育の観点からは、新鮮な野菜本来がもっている風味・歯ごたえ・甘味・エグミなど、そして何より様々な栄養価の高い野菜の価値を見て、触って、嗅いで食べる事によって未来を生きていくこども達に伝えていく事も、私達大人世代の責務ともいえます。

※ フィトケミカル (ファイト - ケミカル) phyto chemical

phytoはギリシャ語で植物の意。野菜や果物に含まれる化学成分。色・香り・苦み・辛みなどの成分で、ポリフェノールをはじめ、体内で抗酸化物質として作用するものが多い。病気の予防効果があるとして研究が進められている。(コトバンク > デジタル大辞泉より)

7. 新年ちびっ子餅つき大会 2015

総務部会 齊藤徳剛



ヨイショ！ヨイショ！お父さんと一緒に餅つき体験

10時開催のアナウンスと同時に獅子舞の太鼓、笛の音が気分を盛り上げる。子供たちの元気な姿が餅つきの行列へと走っていく、親御さんのカメラの中慣れぬ手つきで餅つきが始まった。

見渡せば、あびこん駐車場の真ん中に餅つき会場、ぐるりと囲んで我孫子ふるさと会の獅子舞・休憩所・お汁粉振舞い・磯辺焼き・ぬり絵持参お菓子つかみ取りコーナー・家庭菜園相談・くだもの直売所・美術家協会有志の似顔絵コーナー・川村学園生徒のバルーンアート・あびこ子どもネットワークのJrと遊ぼうコーナーと盛りだくさんで人であふれかえっていた。

餅つきの行列・お汁粉配布の行列・磯辺焼きの行列・お菓子つかみ取りの行列・バルーンに並ぶ子供と終始にぎわっていた。直売所横の飲食店コーナーに目を転じると、みんなの広場「風」によるうどん店・カレーハウス・たこ焼き・焼鳥・蒸しパンクッキー・コーヒーなどの店が並び多くの人が笑顔で買い物を楽しんでいた。子供たちの歓声がひときわ大きくなつたところに、うなきちさん・チーバくん・アビカチャンのゆるきやらパレードがあった。終了時スタッフの「昼食をとる時間もなかった！」とのうれしいボヤキが聞こえた。

本大会の運営は会員有志及び各部会選出の実行委員会方式で実施し、役割分担は一部部会割り当てにて行いました。もち米の手配や仕込みなど餅つき全般については「援農ボランティア受入農家有志」の皆さん、お汁粉サービスの仕込みから提供までは「食育交流部会」、磯辺焼きは「広報部会」、会場整理とちびっ子の安全確保等は「学校給食支援部会」、駐車場の整理と誘導等は「援農ボランティア部会」、進行アナウンスやゴミ箱設置等は「総務部会」が担当した。このほか当日参加のサポーターの皆さんも合わせると約60名の方々が、朝7時半のテント設置から午後4時過ぎのあと片付けまで自主的に動き気持ち良く運営できました。

事故も無く終了できたことは何より大事で成功ではと勝手ながら喜んでいます。最後に、会場を提供して頂き運営全般に最大限のご協力を頂いた「あびこ農産物直売所あびこん」、「農事組合法人あびベジ」の皆さんには、紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

【概況】開催日：平成27年1月17日（土）

来場者：2千人超・ぬり絵持参者：315枚（あびこんで2月、3月に展示を行う）・餅つき参加ちびっ子：約210人

8. 第39回消費生活展

広報部会 若王子範文



展示とうなきちさん

第39回消費生活展が平成27年2月14日（土）・15日（日）に「あびこ市民プラザ」にて参加11団体にて開かれました。当日は風が強く吹いていましたが両日で757名の方が参観に見えました。各団体4枚のパネル展示のほか“おもちゃ図書館、紙口ケット、ぬり絵・折り紙”コーナー、スタンプラリー、着ぐるみのうなきちさん等の催しが行われました。当会では全体テーマ「子どもたちに安全・安心を！見て 知って 確かめて」に対し、「安全・安心をちばエコ農産物で」として、パネル4枚に①ちばエコ農産物一申請から承認までー ②ちばエコ農産物一出荷そして販売までー ③農産物放射線物質検査について ④あびこ型「地産地消」推進協議会の紹介を展示しました。

**1 ちばエコ農産物
—申請から承認まで—**

生産の前に 申請審査会開催後に掲げる農産物が対象
- 農業耕種の作成
- 中耕除草 (例) 作付：1月、大根の種どり：10月
- 農業生産自らで販売登録 (販売登録：1月・4月・7月・10月)

生産 ↓
- 農地看板の設置
- 農地管理記録の記録

収穫前に ↓
- 未登録、登録確認 (登録前審査)
「ちばエコ農産物」の基準を守っているかを審査
- 施肥、施肥（施肥行動規範基準の使用量に従事）

- 農産物を堆肥にするために必要ななどによる「土づくり」
- 農産物のみ施用不可等
- 農地看板の設置不使用 等と
ちばエコ農産物として承認・認証

**2 ちばエコ農産物
—出荷そして販売まで—**

出荷 「ちばエコ農産物認証マーク（ヨーク）を壁に貼付することができる
「ちばエコ農産物」認証開始は平成14年4月から開始された制度です！

発売 JA、「農地看板農産物販売所あびこ」
「あびこの里 わくわく広場 天王台店」
「マルエツ 天王台店」など

「ちばエコ農産物」認証取得件数（平成25年度茨城県）
認証 作物：56件（水稲：10人・10件、野菜：17人・37件）
品目別：15品目
認証 取得農家数：30件

作物別の申請者（平成25年度）

3 農産物放射性物質検査について

厚生労働省基準値（平成24年4月1日から）
放射性セシウム 平成24年度 農林水産品 100ベクレル／kg
乳製品食料 50ベクレル／kg

*我孫子市農産物、保健衛生検査食材の放射性物質検査件数

検査対象	所管課	平成24年度	平成25年度
農産物	農政課	979件	430件
保健衛生検査食材	保健課	792件	601件
検査件数・企画課以下		1,741件	1,031件

*我孫子市農産物のここの。県立国中山田利樹の
対象となっており、平成27年春もまだ出来
ない見込み。

千葉県農産物（米）の放射性物質検査
(平成25年度～平成26年度)

年月	年月
昭和51年	昭和52年
昭和52年	昭和53年
昭和53年	昭和54年
昭和54年	昭和55年
昭和55年	昭和56年
昭和56年	昭和57年
昭和57年	昭和58年
昭和58年	昭和59年
昭和59年	昭和60年
昭和60年	昭和61年
昭和61年	昭和62年
昭和62年	昭和63年
昭和63年	昭和64年
昭和64年	昭和65年
昭和65年	昭和66年
昭和66年	昭和67年
昭和67年	昭和68年
昭和68年	昭和69年
昭和69年	昭和70年
昭和70年	昭和71年
昭和71年	昭和72年
昭和72年	昭和73年
昭和73年	昭和74年
昭和74年	昭和75年
昭和75年	昭和76年
昭和76年	昭和77年
昭和77年	昭和78年
昭和78年	昭和79年
昭和79年	昭和80年
昭和80年	昭和81年
昭和81年	昭和82年
昭和82年	昭和83年
昭和83年	昭和84年
昭和84年	昭和85年
昭和85年	昭和86年
昭和86年	昭和87年
昭和87年	昭和88年
昭和88年	昭和89年
昭和89年	昭和90年
昭和90年	昭和91年
昭和91年	昭和92年
昭和92年	昭和93年
昭和93年	昭和94年
昭和94年	昭和95年
昭和95年	昭和96年
昭和96年	昭和97年
昭和97年	昭和98年
昭和98年	昭和99年
昭和99年	昭和00年
昭和00年	昭和01年
昭和01年	昭和02年
昭和02年	昭和03年
昭和03年	昭和04年
昭和04年	昭和05年
昭和05年	昭和06年
昭和06年	昭和07年
昭和07年	昭和08年
昭和08年	昭和09年
昭和09年	昭和10年
昭和10年	昭和11年
昭和11年	昭和12年
昭和12年	昭和13年
昭和13年	昭和14年
昭和14年	昭和15年
昭和15年	昭和16年
昭和16年	昭和17年
昭和17年	昭和18年
昭和18年	昭和19年
昭和19年	昭和20年
昭和20年	昭和21年
昭和21年	昭和22年
昭和22年	昭和23年
昭和23年	昭和24年
昭和24年	昭和25年
昭和25年	昭和26年
昭和26年	昭和27年
昭和27年	昭和28年
昭和28年	昭和29年
昭和29年	昭和30年
昭和30年	昭和31年
昭和31年	昭和32年
昭和32年	昭和33年
昭和33年	昭和34年
昭和34年	昭和35年
昭和35年	昭和36年
昭和36年	昭和37年
昭和37年	昭和38年
昭和38年	昭和39年
昭和39年	昭和40年
昭和40年	昭和41年
昭和41年	昭和42年
昭和42年	昭和43年
昭和43年	昭和44年
昭和44年	昭和45年
昭和45年	昭和46年
昭和46年	昭和47年
昭和47年	昭和48年
昭和48年	昭和49年
昭和49年	昭和50年
昭和50年	昭和51年
昭和51年	昭和52年
昭和52年	昭和53年
昭和53年	昭和54年
昭和54年	昭和55年
昭和55年	昭和56年
昭和56年	昭和57年
昭和57年	昭和58年
昭和58年	昭和59年
昭和59年	昭和60年
昭和60年	昭和61年
昭和61年	昭和62年
昭和62年	昭和63年
昭和63年	昭和64年
昭和64年	昭和65年
昭和65年	昭和66年
昭和66年	昭和67年
昭和67年	昭和68年
昭和68年	昭和69年
昭和69年	昭和70年
昭和70年	昭和71年
昭和71年	昭和72年
昭和72年	昭和73年
昭和73年	昭和74年
昭和74年	昭和75年
昭和75年	昭和76年
昭和76年	昭和77年
昭和77年	昭和78年
昭和78年	昭和79年
昭和79年	昭和80年
昭和80年	昭和81年
昭和81年	昭和82年
昭和82年	昭和83年
昭和83年	昭和84年
昭和84年	昭和85年
昭和85年	昭和86年
昭和86年	昭和87年
昭和87年	昭和88年
昭和88年	昭和89年
昭和89年	昭和90年
昭和90年	昭和91年
昭和91年	昭和92年
昭和92年	昭和93年
昭和93年	昭和94年
昭和94年	昭和95年
昭和95年	昭和96年
昭和96年	昭和97年
昭和97年	昭和98年
昭和98年	昭和99年
昭和99年	昭和00年
昭和00年	昭和01年
昭和01年	昭和02年
昭和02年	昭和03年
昭和03年	昭和04年
昭和04年	昭和05年
昭和05年	昭和06年
昭和06年	昭和07年
昭和07年	昭和08年
昭和08年	昭和09年
昭和09年	昭和10年
昭和10年	昭和11年
昭和11年	昭和12年
昭和12年	昭和13年
昭和13年	昭和14年
昭和14年	昭和15年
昭和15年	昭和16年
昭和16年	昭和17年
昭和17年	昭和18年
昭和18年	昭和19年
昭和19年	昭和20年
昭和20年	昭和21年
昭和21年	昭和22年
昭和22年	昭和23年
昭和23年	昭和24年
昭和24年	昭和25年
昭和25年	昭和26年
昭和26年	昭和27年
昭和27年	昭和28年
昭和28年	昭和29年
昭和29年	昭和30年
昭和30年	昭和31年
昭和31年	昭和32年
昭和32年	昭和33年
昭和33年	昭和34年
昭和34年	昭和35年
昭和35年	昭和36年
昭和36年	昭和37年
昭和37年	昭和38年
昭和38年	昭和39年
昭和39年	昭和40年
昭和40年	昭和41年
昭和41年	昭和42年
昭和42年	昭和43年
昭和43年	昭和44年
昭和44年	昭和45年
昭和45年	昭和46年
昭和46年	昭和47年
昭和47年	昭和48年
昭和48年	昭和49年
昭和49年	昭和50年
昭和50年	昭和51年
昭和51年	昭和52年
昭和52年	昭和53年
昭和53年	昭和54年
昭和54年	昭和55年
昭和55年	昭和56年
昭和56年	昭和57年
昭和57年	昭和58年
昭和58年	昭和59年
昭和59年	昭和60年
昭和60年	昭和61年
昭和61年	昭和62年
昭和62年	昭和63年
昭和63年	昭和64年
昭和64年	昭和65年
昭和65年	昭和66年
昭和66年	昭和67年
昭和67年	昭和68年
昭和68年	昭和69年
昭和69年	昭和70年
昭和70年	昭和71年
昭和71年	昭和72年
昭和72年	昭和73年
昭和73年	昭和74年
昭和74年	昭和75年
昭和75年	昭和76年
昭和76年	昭和77年
昭和77年	昭和78年
昭和78年	昭和79年
昭和79年	昭和80年
昭和80年	昭和81年
昭和81年	昭和82年
昭和82年	昭和83年
昭和83年	昭和84年
昭和84年	昭和85年
昭和85年	昭和86年
昭和86年	昭和87年
昭和87年	昭和88年
昭和88年	昭和89年
昭和89年	昭和90年
昭和90年	昭和91年
昭和91年	昭和92年
昭和92年	昭和93年
昭和93年	昭和94年
昭和94年	昭和95年
昭和95年	昭和96年
昭和96年	昭和97年
昭和97年	昭和98年
昭和98年	昭和99年
昭和99年	昭和00年
昭和00年	昭和01年
昭和01年	昭和02年
昭和02年	昭和03年
昭和03年	昭和04年
昭和04年	昭和05年
昭和05年	昭和06年
昭和06年	昭和07年
昭和07年	昭和08年
昭和08年	昭和09年
昭和09年	昭和10年
昭和10年	昭和11年
昭和11年	昭和12年
昭和12年	昭和13年
昭和13年	昭和14年
昭和14年	昭和15年
昭和15年	昭和16年
昭和16年	昭和17年
昭和17年	昭和18年
昭和18年	昭和19年
昭和19年	昭和20年
昭和20年	昭和21年
昭和21年	昭和22年
昭和22年	昭和23年
昭和23年	昭和24年
昭和24年	昭和25年
昭和25年	昭和26年
昭和26年	昭和27年
昭和27年	昭和28年
昭和28年	昭和29年
昭和29年	昭和30年
昭和30年	昭和31年
昭和31年	昭和32年
昭和32年	昭和33年
昭和33年	昭和34年
昭和34年	昭和35年
昭和35年	昭和36年
昭和36年	昭和37年
昭和37年	昭和38年
昭和38年	昭和39年
昭和39年	昭和40年
昭和40年	昭和41年
昭和41年	昭和42年
昭和42年	昭和43年
昭和43年	昭和44年
昭和44年	昭和45年
昭和45年	昭和46年
昭和46年	昭和47年
昭和47年	昭和48年
昭和48年	昭和49年
昭和49年	昭和50年
昭和50年	昭和51年
昭和51年	昭和52年
昭和52年	昭和53年
昭和53年	昭和54年
昭和54年	昭和55年
昭和55年	昭和56年
昭和56年	昭和57年
昭和57年	昭和58年
昭和58年	昭和59年
昭和59年	昭和60年
昭和60年	昭和61年
昭和61年	昭和62年
昭和62年	昭和63年
昭和63年	昭和64年
昭和64年	昭和65年
昭和65年	昭和66年
昭和66年	昭和67年
昭和67年	昭和68年
昭和68年	昭和69年
昭和69年	昭和70年
昭和70年	昭和71年
昭和71年	昭和72年
昭和72年	昭和73年
昭和73年	昭和74年
昭和74年	昭和75年
昭和75年	昭和76年
昭和76年	昭和77年
昭和77年	昭和78年
昭和78年	昭和79年
昭和79年	昭和80年
昭和80年	昭和81年
昭和81年	昭和82年
昭和82年	昭和83年
昭和83年	昭和84年
昭和84年	昭和85年
昭和85年	昭和86年
昭和86年	昭和87年
昭和87年	昭和88年
昭和88年	昭和89年
昭和89年	昭和90年
昭和90年	昭和91年
昭和91年	昭和92年
昭和92年	昭和93年
昭和93年	昭和94年
昭和94年	昭和95年
昭和95年	昭和96年
昭和96年	昭和97年
昭和97年	昭和98年
昭和98年	昭和99年
昭和99年	昭和00年
昭和00年	昭和01年
昭和01年	昭和02年
昭和02年	昭和03年
昭和03年	昭和04年
昭和04年	昭和05年
昭和05年	昭和06年
昭和06年	昭和07年
昭和07年	昭和08年
昭和08年	昭和09年
昭和09年	昭和10年
昭和10年	昭和11年
昭和11年	昭和12年
昭和12年	昭和13年
昭和13年	昭和14年
昭和14年	昭和15年
昭和15年	昭和16年
昭和16年	昭和17年
昭和17年	昭和18年
昭和18年	昭和19年
昭和19年	昭和20年
昭和20年	昭和21年
昭和21年	昭和22年
昭和22年	昭和23年
昭和23年	昭和24年
昭和24年	昭和25年
昭和25年	昭和26年
昭和26年	昭和27年
昭和27年	昭和28年
昭和28年	昭和29年
昭和29年	昭和30年
昭和30年	昭和31年
昭和31年	昭和32年
昭和32年	昭和33年
昭和33年	昭和34年
昭和34年	昭和35年
昭和35年	昭和36年
昭和36年	昭和37年
昭和37年	昭和38年
昭和38年	昭和39年
昭和39年	昭和40年
昭和40年	昭和41年
昭和41年	昭和42年
昭和42年	昭和43年
昭和43年	昭和44年
昭和44年	昭和45年
昭和45年	昭和46年
昭和46年	昭和47年
昭和47年	昭和48年
昭和48年	昭和49年
昭和49年	昭和50年</td